

大正三年九月戰時日誌

秘

若宮丸

大正三年九月戰時日誌

1163

九月一日(火)

正午位置。臺南東邊諸島、公使館、基隆、臺北、風向東北風力一四

午前五時半より半速ト十七日出港。哨兵ヲ撤シ見張員ヲ配ス。

七時十二分大公島附近、於テ利根、會津、磐手、合江ノアリ返シテ
搭連島、向ノ磐手、名見、千代田、磐手航行セラ認ム。

八時八分停止 搭連島附近、於テ漂泊

九時半、糧食品積込、タメ、朝霧本船、横付

十時三十六分敵状偵察ノタメ出動 灵山島方面、向ノ

第四戰隊司令官ヨリ次、命令、受ケタ

「本船、今日、天候良好ナル事アリ航行取テノ靈山島ヨリ
利根湾附近ニ至、敵状ヲ偵察シテ明日下午中、搭連島、到」

「靈山島、内側、此原械雷ヲ發見シテ、該島、周圍又地
方内面、危險ナリ可成靈山島、接近スル避ケ及間、其南
方ヲ徐航セヨ當向、天候為シ飛行、過ヤバ大公島附近、北

上に飛行偵察ノ行ヲ可シ爆彈投下ヲ主計畫ヲバ光火魚雷電信又々鉄道ヲ破壊セシトヲ望ム

航空隊：飛行偵察ヲ主ニ當リテハ隊ノ天候氣流、状態ヲ省察シ可成安全、其任務ヲ遂行シ得、自信アリ場合ノハ之ヲ行コトス、戰爭、初期、降し従之胃陵革ラ謬、補充意、如シナキ或器ヲ破損スルカ如キ、本職、取ラサヘシナ珠、湾内及ビ敵砲台射界内、於テ發動機、故障ハ決シテ惹起セ共、機半分ナシ、意ト竟悟トシテ望ム、若ニ失、不幸ニテ敵射界内、於テ着水スヘ、トシナキ、至ハ、断然、武的解決モ醜ク千慮、船ササヘ決心シテ要ス

午後二時半、靈山島（靈山島）レジテ徐航シテ三時四十分頃、復シ南東ニ麥針七等、麥針八時半、島北一里ノ地名、及河萬雲、牛面方等次テ船内前成
正午過靈山、南西端南、東向、蓋處靈山ノ最高峰、最高、天柱、風向東北風、風力五級

前一時半今出港、靈山島、向ノ天候不順、航終、過時半時七分靈山

八月二日(水)

島、南南方錫地、游泊にて天象、候復ノ待ツ

人情無所不盡。其間或有失於過熟者，則固不可謂大病。又在於其過熟而失之於
直率，亦人情所常有。總歸事物，必無一毫之私，此

午前十時三十九分指揮官「第四戰隊司令官死次ハロニ電報ス
本船昨日未予定ノ如シ行動シ今朝「地A」、南西一浬半ニアリ
陸岸ノ模様便乗申此位置大便ノ天候、對シ風浪、避ラル
過カト認ノ此附近、在リ天候直ツク事任務ヲ決行シトス

出来得六附近にて哨船ヲヒテ巡邏(監視)セシムテ

午後二時半左右第四戰隊同人會第一次、電門

卷之六
行動ノル

我飛行械偵察了始八地「S」哨船及附近駛逐經八通宜哨

戒但置ア麦ニ為宮丸掩護ノ準備レアヘ

午向東日戰隊司令官タニ東ニ西隊司令官下定次、電ヲ傳度ス
終日晴天小雨天候不穏、是宮丸ハ地A、南方ヲ視察シ同方
面飛翔スル、敵モ有利チ時機ヲ待テモ天候不良、爲ノア加根セ
ズ哨色異状ナ

午後凡向南、麦ズ

午後七時出港、水雷防禦、船内八道哨戒ヲ警戒航行地一。
一大島、同ニ南航シ午後九時半投錨ス

八月三日未

晴天、風向南東、風速一級半、氣溫高熱、
湿度七成、露點溫度、風向南東、風速一級半

午前四時出港、東北近海ヲ朝來南東、凡良益、漁、午前七時、
SE、凡平一大、達ス、向、タノ糸子島、南西緯南、イ東一哩半、校
錨ス

錨ス

午後七時出港南下シ水雷防禦ノ直哨兵ヲ船内哨戒入九時
ヨリ半時トシ南下スルノ數次終夜警戒航行

九月四日(金)

平洋風雲山島、北端東面、氣溫最高ハ。氣壓最低セモ天候最良也。風向南風、風速五級。

午前六時半十五分靈山島北端、東一浬、見地魚、投錨ス

天候恢復北東直、流行事備ノ行ノ流行械青水便ホシタシ
一帶岸近、風波ヲ避、午前十時半七號流行械ヲ船外、出ス

午前十一時十三分出發尚水同三十十分船内收容此時屢々驟雨
アラ度張月由ナラズ船擋管引第4戰隊司令官、次、電ヲ發
「白晴ニ至ハモ天候良好ニ向ノ換算ノ風力層、四、達ス即チ
飛行ヲキ上ノ鋪地ヲ麥更ス

午後七時出港南下シ七時半水雷防禦船内哨戒

午後二時四十分奉田戰隊司令官モテ電アリ

貝島より本日ヨリ着官丸保護、乗子左ノロウ行動、晝間地八九
ニテ「前代日没ヨリ地東一〇六度、南下天明地点ハ九二、帰」

九月晉(土)

平往還

一里

風向東北風力一
最高八、最低六、風速大八、風速小六、風向南東、風力半一

午前六時靈山島南方、南航三時半北上七時航行機御方準備、着手ス
七時半五分凡波ノ避クルタメ靈山島南端、南八度ニ達シ、地東、校錶

九時十四分ニヨリ航行機ヲ起ス

大時十五分全飛行機噴水ニ敵状、復察モ、爆彈投下、タメ青島ニ向

向之飛行機

十時半六分七時、航行機噴水ニ同上、復察、タメ青島ニ向之飛

行機

十時五十三分ニヨリ航行機歸着、七時半航行機、遅ニテ十時半

大分級着可セ直ク、之ノ收容シテ、即チ二號航行機、アリテ、一時

十七分七秒、アリヤハ一特平八分、飛行ニ考大、効果ヲ收メテ無
事般事務ミタリ

戰時ニ航空機闘、實用ニシハ本日ノソア噶矢トスニ而カモ不思
棄、況内、アリナ考大、效果ニ齊シニ第一飛行機、如キハ散銃
丸ニ個ヲ蒙ヒモ飛動極(其他)、複合ナシ、來貞何モ無事ナリ
之ハ奥ニ華ニシテ航空隊員、技術、肉戰、辟刀頭、遺憾ナシ發
揮セシムモノ謂フヘシ

飛行機偵察詳報左ノ如ニ

航空報事虎拂

第二號飛行機偵察詳報

操縱將校 海軍大尉 和田秀穂
偵察將校 海軍少佐 金子養三

今 海軍中尉 武部鷹雄

天候曇 傍南風力約十五未突(高度千未突) 皮膚和

大正三年九月五日靈子島西側、风はノ避ケ後向中房ニ拂

行松ノ準備」午前大時十五分出港ス當時傍南、風力十五未弱

(高度千未突) ラ等シ雲霧低空フ能シ東風強ハ不良ナ

ミズテ(チラクヤウ)島附近ニ雲霧ヲ避ヒテ漸次昇騰シ

午前大時四十分未突、高度ニ達シアリヨナホイ止附近ノ頃地

上ヲ全テ膠州湾内ニ進入シ漸次高度を増加シ十二分未突、達

シ青島海岸、即ち市内ヲ駆除シテ前進小波又南洋内

ヲ復攀シ數回市街、上ノ船頭シ佛母、達摩ニ向

リスヘン舟船、一例ヲ放下シ西シテ外、出港ノ原因の觀點ニ向

而導ニ各一例、鉛彈貫通シ一例、織大布裂れシ此其間、

飛行、危險、感ニ及ハシヌテ道、般舟、就午前十時五十分進

事本船、般舟スピ、行狀始更年未拂ト臺灣關ニ帶々風穴、渴、渴、

一時、二面未突余り落サレんキアリレハミナズ向断ナヘ雲霧
妨ケラシテ詳密ヒ報告ヲ齎ラス能ハザリシラ遺憾トス
擧要原左、如シ

(一)「ハマデシ」ヲ認メズ

(二)「カイゼリニーナガス及ミ商船三隻ハ商港、埠頭、横着ス碇舡
三隻S.P.及「ターチ」ラニキハ工廠、埠頭、横付ス碇舡「ヤ
ガ一」型一度ハ小港、栈橋、横着ス

(三)商港、入口ニハ西側ヨリ突出セ防材アリ中央ノ闕キ通路、
ナキモノ如シ海内山ト「アバラン」岬ノ向ニ防材ナレ

(四)「ハマデシ」岬附近ニハ何等防禦工事ラニキモナシ但し檣高立人
吸山頂ハ通航、柵ミ・ト廻シ内ニ棟、小舍アルタクシテ

(五)集落一個ラ無津電信所、拉合ヒモ面積、ラ共用界不明
其得ナ「エスター」矣當ヒ一枚ジタヒモ金剛ヒ島下櫻森セシラ

効果十ヨリナント黒

(六) 飛行機翼、小銃弾二門貫通ノ結果、三個所、被損ヲ
生ズ修復・洋ウソ事也

(七) 航母南洋方面ノ敵艦、船員三百人弱ヲ獲ア
前然丸(銀鷗丸)一隻(敵艦船從泊圖)失墜

航空報第1号

添七第6飛行機便祭洋報 於寧山若宮丸

操練11校 連軍中尉 廉 腹

便祭小校 連軍中尉 大崎 敬 信 腹

天候晴朗 風向南風六米空氣(西北東空之下)波浪和
大正三年八月五日午前十時飛空隊指揮官ミー左、金丸、

第七拂、飛行機ニテ敵火内ヲ便祭ス。

右、金・基十午前十一時十五分船行、準備終、直行、着手
 船ナ前九分本船ノ航向三十分飛揚風上、回、漸次上昇高度
 百米以上、針路、北東、航行時間、四時半時ヤリセシモ
 逆風、海ノ風速、船ナフサニラム、十時三十七分海ノ西南、
 右曲シテ風上、回、西未矣ニ達、一時四十五分北東、定針上
 駛、シテ、風速、急減、横ナリト午前十一時、二十キロ時、達、ス
 带、船速、百米突、大同江、Nan chuang、東方、甲ヨー
 Arkona / ハミ、逆風、船ナ風速、其間、高慶四三〇米
 無、無、逆風、上昇、船ナ、上昇、船ナ、然ニ、逆風、ヘ走、ハ
 ナ、風速、船ナ、船速、逆風、船ナ、船速、船ナ、確メタシ
 ハ、甚度、走、船ナ、船速、利用、洪内、公通、ヘ走、シ
 テ、テ、風、船ナヨウ共通、洪内、突入、シテ、回、漸次、船ナ、未
 ポ、共内、視察、船ナ、船ナ、土時十五分 Bay Brook、東側、
 ラ

其便ヨリテ、洪口ニ面スニ部分ハ視察スルヲ得サキ

一、蘇聯島嶼 *Hainan Lang* 二、陸上ニ防衛工事ラノキシノ

ヲタメバ

游内ニ、南西約五鍾(約二マイル)ナス型砲船一隻碇泊シ

四、游内ヨリヨリ北岸ト、間ニハ防林ラニキモノヲタメバ

五、游内ニヨリ北方ハ雪霧、爲ノ風浪出來サヘン(直)威十半

六、游内ニ南邊向ニハ「ハーデン」ラルキモーラ近メバ

七、洪口並岸ニハ無數、千ヤシニ陸岸引揚ケタリ

八、航行機又無貿、因次伏ヒ

九、中國第一國 *Guo*

第十、電 (年廿七月廿五日正午)

十一、太始揮 *Wei*

十二、金子久波和田大尉、西郷中尉、大崎中尉、藤原中尉、

勇敢にて航行值察、ヨリ敵伏シ詳カニス、ト得西若作戦
利キ久松ソテ大ナリ本職、深ク此等勇士、行動ヲ仕トス
ト共其成功ヲ祝ス 第二艦隊司令官

牛町見島、哨尾、就ヘラ認ム

磐手ヨリ神丸本日午後三時ノロ浦ヲ經テ佐世保、向ケ出港、
通信船若狭郵便更取、タメ各哨尾ヲ巡回駆逐船、候
午後二時三十分同八九時自及シニ塔連島、未ヘ電アリ依テ
東洋島、派遣セキ東陽ヲ収容シ三時四十五分出港野分若
葉、郵便托送及書類受領、タメ一時漂泊午后七時石見
我左舷ヲ立航哨尾、警戒ス水雷防御、艦内哨戒
午後九時半搭連島後泊入院患者ヲ神通丸、托ス
磐手ヨリ利根ヘ電、午後九時三分地ハ九七、於テ電燈ノ点ニ
敵、航行機西方約十度、高度ヨリ我ヲ追尾セテ是ア花菱

アカヘシニテ電燈ヲ滅シテ「第四戰隊、速力ヲ増シ東航中」
本船ニ直ニ準備シテ敵ノ飛行機ヲ待チモ遂ニ思ひ入能、カリ
船内ナキツ

病人ヲ神通九度、え後地九七六、南西下がリ後靈山、
向、飛行詳報ハ塔連島、後泊ミ、駆逐艦、渡シ置ク、

右、電、依リ

午后十一時四十分出港、塔連島ヲ発し南西、針路ニテ航行ス

駆逐手ヨリ利根、電

官房第三四大三事ヨリヒ、降遷軍艦、海下士卒任用、進級試験
ハ難問、外便宜省略スルコトヲ得

午后九時五分駆逐手ヨリ電陽、午后九時地ハ九七敵ノ飛行機、追
尾ミテ

第三船隊、11月11日、第三船隊機密文、11月11日

同一ニテ四戦機密ガ六号 大母機密ガ三二号ヲ領收

八月六日(日)

午後置靈山、南西端、晴、氣溫^{露高}八二度、風向南東、風力一級、高度六九三米、壓^{露低}五九二毫米、北緯三五度、東經一三〇度、三〇分、地點於北西麦針

前六時靈山島錨地、拔錨^六

前暴流不長、航行^六上^六

正午。時半九分受當分内各艦、四戦陽司令下第十二雷戰隊司令、定メタ、船置キ交代法、依^六行動ス^六但^六本隊ノ^六、^六船手八雲^六地点^六逐^六周防常磐^六之代^六

午前^六全リ天候良好^六テニ^六飛行機^六出^六シ^六月一特四十二分出發^六那^六青島^六復^六航^六向^六ノ^六月三特三十分無事帰^六着^六月一機^六那^六

内^六收容^六

依^六取^六敵^六不^六偵察^六狀況^六、^六長^六大^六電報^六

航空報第三号

第一拂流行械便參報告(大正三年九月六日)於靈島着落

操縱將校海軍大尉 和田秀穂

便參將校令 山田忠治

海軍中尉 斎倉貞造

天候 (風向風速)

半晴 風向南 凡力 浪高五一大半秒
波高半高十秒 檻標和長旗不

出發時刻及地點

午前一時四十分 霊山島西側母艦

歸着時刻及地點

午後三時三十分 今太

帰着

航行特教

一時四十六分

全航程

八九哩

最高高度

千八百米空

故障破損

十七

一大一小二於今船舶位置、
二、大一小於今船舶位置、
三、第二拂流行械便參

報告ト同

備 條 要 摘

二外港、アムサ島、海北、「ヤガ」型砲艦一隻碇泊ス灰泉角
ノ「落山」、西端「オートポイント」至「沿岸」、商船船ヲ
認メズ其シテ以東、雲々為メニ見え工ス

三陸上、防備、海防河口（高港、北側、流入スモ）ヨリ南東迄山、
西線（内半第二種膠州湾防備回豫想防禦線圖）同位
置]上、内側「ドントラニキ白色、塗ダナチ其、内方「ヘルチス山
東麓」、「ヤンチナナ」附近及楊家庄、北東方附近、各一例

處、砲台アリ、各四五門、備砲（小口径砲）アリモノ、如之上

、防禦本線以東、萬山龍山一線以西、防禦工事ヲ認メズ其

ヨリ以東、「分明」、「八千石」、「毛」、「山腹」、「周圍」、「小樹

木」、「周」、「永久砲台」、「海」、「南」、「炮臺」、「附近」、「小口径砲」
、保、置、立、キセキ、タク、青島、南、西、端、標、高、七、一、ハ、中、口、徑

砲架上、砲四門ヨリ成ニ一砲の丸ノミ

ノルキスシ砲引ハニハ中口径以上、砲六門

灰泉角砲台ニ一門、大口径砲ト三門、中口径砲

オーバスト等トマクマニシト、中間附近ニ教習、砲台アリニ備

砲詳ナズ

四、煙燭三個ヲ投ズ第一、青島、北西端市街直路、煙發シ

第二、佛寺場、散開セテ敵(約)千隊ニ向テ投下セシ附近、人家、舎中ヤニ第三、浦津、南、東、西所、投下セシモ附近、森林

ニ底下煙発シ

五、深大陽、海賊船、飛行機格納所ラニキニ二棟アリニモ

庫外ニハ飛行機ヲ想メズ

六、飛行機タ来航、要來ナシ(但摩航路西)

陸軍大臣ヨリ同令三十日左、電マニシト

(六)

航空隊員、膠州湾便察、圓ノヘ電令、報告接し其間
敢ニシテ周到ト行動ラサト今後益々力籠シ一層、功績ヲ
舉ゲン一ヲ望ム

午前四時受林兩ミリ各艦即

敵砲艦ペイント(膠州湾口)ニ見エ南航ス緊急信号
アサード李那、錨地於テ敵影ヲ認ムヘコト能ハサリ

午十七時出港セシテ、當ル駆逐艦朝風、持ケ来シル

第三艦隊松島第一七号キニ艦隊松代第二ニナカニ艦隊貝八
三号ノヘ交換ス

第二艦隊松代第一七號

第二艦隊命令 大正三年九月四日
於第一地點旗艦周防 (前命ヲ除ク)

大馬鹿丸、哨戒部隊指揮ル、下ニ置キ航空隊二ノ時松、
許ス限、但參行ル航行ナキニ、第二艦隊ノセミの藤定吉

第二船隊第三二五號

第一地點、於之各艦船錫地ヲ別置、始改（別面置）

大正三年九月五日 第三船隊刀、鐵木加藤定吉

第二船隊日ノ第三拂

大正三年九月四日
於第一地點錫地防

加藤第二船隊日、長六

大正四年九月、錫地部隊槍械下、房ニアリ行動ノ航
空機擲弾及スニ第一軍團ノ飛行準備、為ノ事、
合氣ノアリハ（同合四名ス）

午後七時半出港、四十度、風向西風、地點、松鍋ス

大正四年九月、錫地部隊第一軍團ノ行進、
午前四時半出港、風向北東風、地點、松鍋ス
天候不順、八時、雨雲、風、大風、所以、午後七時半、天候更ミキ

飛翔ラ此貴艦、傍ニ行キタレ差文ナキヤトレ報シテニ

時半今、及差文ヘナトア

チ合。時三十分出港、五時半分抵達、即ち航行中
屢々駆泊來龍衣ス、次ノ荷卸、同ノ取扱、内金
ヲ受ケタリ

航空隊圖か強力敵、敵状ヲ偵察シテ、降伏乞フ、然
行方不明、御船之圖、敵たる日本也。一隻、深處破損セテ、
切望スナ、今、敵船之圖、鎧地ヨリ、ソノ可成抵達、鎧地附近ニテ
テ行動セヨ、航行、本職、余、依シ一トニ至急、旅順、奉天、天津
水糧食ヲ備載シ再び抵達島、般航スヘント

係ヲ午允七時出港、旅順、向

扶連島ニ旗艦周防、常磐、國東丸等在泊、

午後六時、千代田利根來、會ス

九月八日(火)	正午後過 前十勝山東高角燈台ヨリ 東寶丸「コメ」丸、南北航、會の 午後二時ヨリ北東風力増加し午后八時、至テ力大ラ暴レ熱烈 烈ナ同大時半於知床外鍋地ノ後泊ス聲報候テア 午後十時時辰ラ西那樺津時、改 此時天候愈々険惡、北ノ船、動搖大ラ主帆ヲ使用シテ 船首ノ帆は、ミツウ
九月九日(水)	正午後過 午前。時半分凡雨更、激烈ラ加ヘ走鍋ヲカソタヘラスニ西鍋内トモ 終夜主帆ヲ使用シテ漸々船首ノ風ミツウラ得タ午明三時晴 雨計ハ益々下降シテアズ同五時半凡向漸次東に東トマ ズ次テ東子トナハ時南々東、麥ジ晴雨計上昇シ初メテ

		天候恢復、北アリ依テ午前一時旅順港内に入り、月一時半ア ニハ穂離率留ス。午前十一時整、報復ア
		午前 指揮右ヨリ左、電報ヲ發ス
		「本船昨夜未央、外鍋地、於ノ颶風、遭シハヤヒ夏伏モ
		飛行機(七号)五、天蓋布ノ破損ヲ生ス。風、風十次第入港、修復 ノ上、帰ニエシ脚件可ツシ」
		炭小糧合、持載
九月十四日(木)		正位置於旅順港内、後晴。正午、晴。正午、晴。正午、晴。正午、晴。正午、晴。正午、晴。正午、晴。正午、晴。正午、晴。
		糧食石炭共、載
		午前十時、旅順港内、六、八、九、飛行機(五、七、八、九)、船、艦 修復竣工。海水罐ヲ移収入

九月廿日金

正午後過前同

晴氣溫暖風向北風力三至四

潮低大立氣壓低落天氣

人夫未點數不足、タメ載灰接々シカラス人夫增加シテ本船兵
員ラニテシ助ケル

午後九時、空ヲテ風力次第、衰フ

淡水於載

九月廿日壬

正午後過共舞三人、シカク晴氣溫暖風向北風力三至四

午前二時載灰無了同、時半出港午后七時半山東高麗、達ヘ

午后九時頃森木溝傍冲ノ航行中左舷ノ航行シ、アーチ船ヨリ
夜中便シテヨリ得テアマメトセシカモ便ノ得シ能ハズ全般ハ
其伏航過カ一多分風浪得ツ矣シ青島・向ヒツアツ更細
トライアーツナシノト相定ス

九月廿四日

正午位置於鹿島北、北緯三十六度五分、東經一百四十一度五分、風向北、風力一級

午前半時辰ヶサ央標準時、改ム

午後半時辰ヶ連ニ付シ、投錨ス

布樽ニテ、夙、長代ヲ次、年ヲ度ケタ

其船、今早出港シテ、回、也、而ニ航空隊ノカウト、港内、敵機當面、陸上防衛設備、備蓄ナシ

午后、晴洋出港北進シ、即 matternon 航空母艦、停止庫向川
號、今二號航行機先へ飛羽三號、五十號、並航行機飛羽
八号船、自時半、午時半附近、以泊、日暮四十分、ヨリ迄テ
四時五十五分、七號航行機般着メ

航行便密、浮報左、船

船空報第四十七、甲

第二號航行機便密報告(午後四時半)が發シテ

操縦將校海軍大尉山田忠治

偵察將校海軍中尉大崎教信

今
今
藤瀬勝

天候

(風向
風速
標高)

快晴 風向 南西 風速 一八至二米(秒) 海上平穏

出發時刻及地點

午後三時十二分 Matheson 島、東五浬母艦發

帰着時刻及地點

午後四時四十分牛島岬、西北西三浬母艦着

飛行時數

一時三十一分

全航程

七十浬

最高高度

千三百米

故障破損

九

便
一、勞山灣第一、第二、第三上陸候補地點海岸附近及陸上方
面五浬、間六敵兵站、敵、防禦工事ラミキニラムズ
橋
二、第一次上陸地點附近海岸、小型巡洋艦船隻アリ

要

三房ヶ島附近、海水圓濁、為水中、何物も見え能ハズ

四葉貢無事

引紙航路圖

(終)

航空報第四号乙

第七號飛行機偵察報告(大正三年九月廿日)於房ヶ島沖

操縦將校

海軍中尉 飯倉貞造

偵察將校

少佐 齋藤雄

天候(風向風力
海上模様)

快晴 南西、風力一ノ至二木(秒)

出發時刻及地點

午後三時三十五分 matheron 島東五哩母艦發

啟航時刻及地點

午後四時半大分牛島沖、東南東三三哩母艦着

飛行時數

一時廿一分

全航程

六十二哩

最高高度

八〇〇米

	故障破損	十九
	便案摘要	前者以此
口信(午前〇時十四分)		
	本日正午ヨリ第四戰隊司令官シテ前哨方面、指揮ヲ執リ、	
	午後六時朝鮮丸ヨリ爆撃四個復收	
	午後八時半周東丸ヨリ本船明〇午前五時搭連島に向コトナリ今地	
	二回航セん、リトア那リスナ	
	午後十時十分旗艦周防、本船明朝七時出港石門島冲ヨリ前半 決シ奥寧シ於載(ヨウノミツ)美東丸附近、在ナチ航行機天皇帝 修復セシヨウニキヤト無叶セシ、ヨウニテ意得ア	
第二船隊法大第三ニ第(万夷同盟艦使等子萬中西カ)ノアメ		
晴天(晴)		
正午(晴)	快晴氣溫最高七 度(最高氣溫一 度)風向北 風力一三	

終更起床後直ち飛行機出方準備する。

午前七時第三段泊地ラ出港 同九時腰島岬、南東ミテ停上漁泊
日本三十日午前十一時四十九時三十九分先づ七時 飛行機ヲ出レ次ナ
同九時半五分ニ至テ二時迄飛行機ヲ出ス何モ間モナシ海水旁山
海内、向ハリ十一時七分七時飛行機先づ本船ニ般投し同半九
分ニ飛行機着水、機因故障、又滑走不能トナク答鷹、
或既セシ同半十分本船、又容セシ便密西洋報左ノ如し

航空報第5号、甲

第七師飛行機偵察報告(大正三年九月十四日)於梓連島

操縦將校 海軍中尉 大崎 敬信

偵察將校 今藤 勝

天候(風力風向)
(海上模様)
快晴風向南西風力二乃至三級海上和

出發時刻及地點
午前六時三十分腰島岬南東之東大煙五母艦發

飛行時刻及地點	午前十一時十九分於連島海面着
飛行時數	一時三十九分
全航程	六十七哩
最高高度	二百米
故障破損	十
備註	「松島號見、駁モ同当大高處百五十乃至二百米、高サ於 テリ、島、知、腰島即ト於連島トヲ連結ニ線、西側各々 一座、北都合二座、中ヲ櫻島也セ、向者モ忽メス全海面ニ水 面下十六以内、或當ナキト也」
備註	「勝島即、南、東約二哩半ニ計製浮標、毒ノ方旗ヲ タヘモ、一向未セ」
三乘組員	(明治天皇)
航空報第2号乙	

1194

第三拂六航行日便寧報正(大正三(年九月十日)於扶連島

擇巡將校

海軍大尉

和田秀穂

便寧將校

海軍中尉

飯倉貞造

人

武部鷹雄

天候(海上、種保)

快晴 風向南西 風力三末 海上種株毛根

出發時刻及地點

午前九時三十分 腹島岬、南東八度九五分

歸着時刻及地點

午前十一時五十分 延島北方鍋地母船着

飛行時數

一時十五分

人 航 程

一〇二哩

最 高 上 度

千八百米空

便 故 障 破 機

失

便
「勝鳥」
Rowstead Island 一勝鳥島

巡防御第工事之處

メガ

11. Ichinose Chanyang 横東、新嘉坡(即國、不)、白服、商

兵士、キル者約三、手名汗徘徊せり見ル

兵船、東方海岸、后方へ通路上、約三十名、荷兵ラニキ、散開シアリカ火薬一粒、枝下ヤニ爆弾、破裂シヘヤ急遽、

通路上、北西方、歩きヤリ

ノ、火薬、東方海岸、船尾水上飛行機格納庫ラニキ

モ、一棟アリ前面ハ檣壁ハリサヘア同アリ

四砍テロ、底舎ラニヤバハシ七棟アリ

五、鷹房山洪内及附近、約三哩以内ハ防禦工事ラニキモハラ

退メバ

大鷹山洪内及其附近約三哩以内、海面ニ海水濁濁、栈橋、
透視不充分、其有否明確ナガズ、高空ニ飛行久看
水上摩崖、結果 Roadstead of the Red Rock

附近ニ直徑約一米突、シテ白色頭部ヲ有ニ黒色、
大海内駆逐ニ見於西、ナキ艦フロウルズPK、西
側距海約半米突、後部ニ直徑約一米半、鰐褐色
円形鑑アリ、僅、腹部ヲ水面ニ露出セバ見ヌ

ササシ、對ノ爆彈二個、一枚下リ内一側、火薬附近、通
路上、爆發シ他、拳銃ラニキ揚所、落丁シニモ真打煙
ヲ起メス

八、樂國(同前) (附圖)(樂國)

(終)

午後二時半五分船右ヨリ小公島、方、敵、樂國見シト、信号
アリ、敵、樂國、樂球ハ達大公島、上、洋海シノヤニ
ラクマターサント船動サドガタ

午後一時四束九ヨリ職工奉船飛行機天幕、其他ハ修

理、諸事ス

本日二年六月行機飛行復、降浦收ヨリ、砲陣飛行機、直傍、落し基盤危険ナシ、午前同船ヨリ次ノ信拂メ

司令ヨリ指揮官エ本日午前十時頃ニテ飛行機「ジドロ」

附近着水セ時飛行機射擊セ、勞山内、敵砲台ニ
テ十三駆逐隊ハ急速掩護ノタメ飛行機附近、行きモ飛
行機、異状トノ報得テ引返シ、屏網、周防、報告シ
アヘモ本隊ヨリ射擊手ミタト傳ニ合フ、ハ容易ナガルノ以解
ラスナ念、為メ通知ス

午後〇時十五分換連島北方錫地、就、

午後。特半分朝風入、シテ可立特旋出港次テ秋

津川出動ス^{吉大時至左方磐手ヨリ金キ島津道通前朝御船地來リ今ア}

午後七時歸泊、又出港同十時牛島岬東南錫地、旋泊

ス